



特定非営利活動法人 なんとなくのにお 通信

URL <http://www.nantonakuno.net/>

Mail info@nantonakuno.net

進学・進級おめでとう！

毎週水曜日はギターや歌で楽しむことが多いです。3月の半ばごろ、「3月27日は、パーティをやるか」と誰かの発案で「進学・進級を祝う会」を開くことになりました。元利用者の高校生の訪問もあり、たくさんの子もたちと家族のみなさんが集まりました。

メニューは「縁日屋台」をイメージして、フランクフルト、焼きそば。人気の「ふりふりポテト」セットもアマゾンから買い込み、準備しました。大量の焼きそば作りには不慣れでしたので、少し心配でしたが、参加のみなさんからの的確なアドバイス、「大量の野菜は無理に炒めず、フタをして蒸す！」...などなどをいただき、手際よく調理が進みました。焼きそばの仕上がりは上出来、大成功でした。ありがとうございました。少し大人っぽくなった子どもたちにも会えて、嬉しかったのと同時に月日の流れの速さも感じました。お父さん、お母さん、ご家族のみなさんがいつも優しく成長を見守っているからこそその



3月9日(土)「日光ボランティア・市民活動フェスタ」中央公民館の様子 (3ページ)

笑顔なんだろうなと感じました。新年度、新生活がみなさんにとって素敵な1年になりますように。(丸本)

料理をみんなで作るのがおもしろかった。「はじめまして」の人とも料理を一緒に作ったり、いっしょに食事することで自然と会話が生まれました。楽しかった。

(参加者Tさん)

2023年度の「子どもの居場所」は3月29日(金)で活動を終え、4月より新しい年度が始まりました。暖かくなりインフルエンザは終息傾向ですが、新型コロナには相変わらず「強い感染力に注意」という報道も見られます。体調が思わしくないときは休む、場合によって手洗いとマスク、空気清浄機の活用、換気などの対策を行い、2020年以降中断していた「つくって食べよう」、「居場所オープンデー」、「サイエンス・カフェ」などをスタイルを見直しながら再開していきたいと思います。今年度も「なんにわ」をよろしくおねがいします。(手塚)



↑ いつもの「なんにわバンド」です。「いい日旅立ち」もレパートリーに
← フランクフルト + 目玉焼き入り焼きそば。なかなか豪華です。
←← ゲームPCで遊んだり、みんな気ままに過ごしています。

目次

進学・進級おめでとうの会
コピーレフトって？

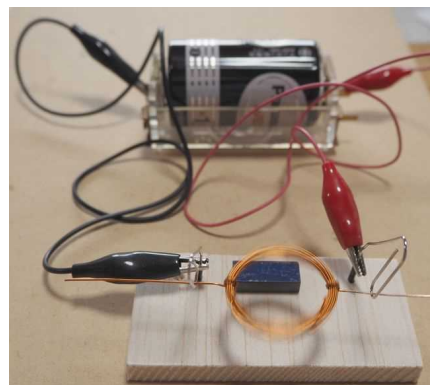
こどもワカモノフェスタ、
日光・ボランティアフェスタ
活動報告

こんな本はいかが？ 65

1
2
3
3
4

居場所のひとこま

ワカフェス、ボラフェスに展示した「簡単モーター」。ホルマル線、クリップ2個、永久磁石(できれば強力なネオジウム)と電池1本でOK。作り方は「クリップモーター」でネット検索してください。コイルの両端の電極の細工や磁石の位置などいろいろ試してみると楽しい。ホルマル線両端の絶縁を紙ヤスリではがすのにちょっとコツがいります。



「コピーレフト」って何？

Copyleft - all rights reversed



いつもはあまり意識しないけれど、パソコンを使うという事は、いろんなソフトウェアのお世話になることです。この文書はマイクロソフトの「Publisher」というソフトで書いています。さて、この瞬間、いくつのプログラムが動いているのでしょうか。タスクバーを右クリックし「タスクマネージャ」を立ち上げると調べることができます。アプリ(3)、バックグラウンドプロセス(81)、Windows(99)…、数字はこの瞬間に動いているプログラム数です。

いま、このディスプレイには3つの「ウィンドウ」が表示されています。編集のための「Publisher」、ファイルを操作する「エクスプローラ」、そして「タスクマネージャ」です。これが「アプリ(3)」に相当します。では、その下にずらりと並んでいる、バックグラウンド(81)やWindows(99)というプログラムは何をしているのか。多くがWindowsというシステムを支える必須のプロセスです。ほかにネットワークに接続し情報を集めたり、Windowsのアップデートを調べたり、ウイルスチェックを行ったり、などなど多くの仕事を受け持つプログラム群が走っています。

この頃はあまり聞かなくなりましたが、「パソコンはソフトがなければただの箱」。アプリが動く基本となる「OS」と呼ばれる「Windows」はPC価格の中に含まれています。単体で買うと2万円くらい。「ワード」や「エクセル」のアプリも必要ですから、さらに数万円が価格に加わっていることになります。マイクロソフト社はソフトウェアの開発・販売で莫大な利益を上げました。いまでも「ソフトウェアで稼いでいる」会社のひとつかもしれません。

いっぽうで、コンピュータの黎明期から、「OSであろうが何であろうがソフトウェアは人類の共有財産である」という思想が開発者を中心に根強くありました。ニューヨーク生まれのリチャード・ストールマンは1980年代の米国で「自由なソフトウェア」をめざし、新たな著作権制度「コピーレフト」を提唱したことで有名です。(ネットには西海岸で活躍したロックスター、ジェリー・ガルシアみたいな写真がたくさん載ってます)「プログラムを好きなように実行し、コピーし、配布する自由」、「ソースコードにアクセスし変更する自由」など著作物・著作者を保護しながら新たな発展を目指し、その活動は今も大きな流れとなっています。

「リナックス(Linux)」という名前を聞いたことがあるでしょうか。「Windows」に相当するOSとアプリが誰でもインターネットから無償で入手でき、登録なしに使用できます。処理手順やデータ構造を記述した「ソースコード」を手に入れ、そこに改良を加えることも可能です。思いついた新しい機能をマイクロソフトの「Windows」に付け加えることはできません。しかし、「Linux」であれば開発チームに参加し、改良した「ソースコード」を組み込むことができます。そのためには高度なスキルが必要になりますが…。「Linux」の最大のディストリビュータである「RedHat」社のホームページからの引用をご覧ください。(以下太字引用)

<https://www.redhat.com/ja/topics/open-source/what-is-open-source>

【Linuxは、オープンソースのオペレーティングシステム(OS)です。Linuxは元々、1991年に Linus Torvalds氏が趣味として考案し開発したものです。Torvalds氏は大学在学中に、Unix の原理と設計に基づいたMINIX オペレーティングシステムの代わりとなる、無料のオープンソース版を作成しようとしてしました。その趣味が高じて開発されたシステムは、今や最大のユーザーベースを持つOS、一般に公開されているインターネット・サーバーで最も使用されているOS、そしてトップ500の最速スーパーコンピュータで使用されている唯一のOSとなっています。おそらく、Linuxの最も優れた点はオープンソースであることです。LinuxはGNU General Public License (GPL) で公開されています。つまり、誰もがこのソフトウェアを実行、学習、共有、変更できるのです。変更を加えたコードは再配布することや、販売することさえでき、すべて同じライセンスで行う必要があります。これは、従来のオペレーティング・システム(Unix, Windowsなど)と大きく異なる点です】

IBMの子会社である「RedHat」はLinuxOSをメンテナンス付きの有料で企業に提供しています。同時に無料で使えるオープンソース版もあります。どうしてこんなことが可能なのか。「探求学習」のテーマによいかもかもしれません。

ネットワークの世界では「WWWの発明」という画期的なできごとがありました。1989年、舞台となったのは欧州原子核素粒子研究機構(CERN)です。発明者のバーナズ・リーは世界中に散らばっている研究室間の資料検索を容易にしようとCERNのネットワークにWWWを構築しました。それを使ってみた研究者はそのすばらしさを実感。CERNはこのアイデアを研究者だけでなく誰にでも無料で提供することに決め、「特許」を取らず、すべてをフリーソフトとして公開しました。この判断がWWWの爆発的な普及を促したのです。数年後、この仕組みは世界中に広がり、いまでは誰でも使っている「ホームページ」の基盤ソフトウェアとなったのです。詳しくはCERNのページを。

<https://home.cern/science/computing/birth-web>

学術研究の成果は広く公開し、共有されることで次の発展を生む。このことは科学の世界で広く信じられています。『ピタゴラスの定理を1回使うと100円お金がかかる』という世界は想像できません。人間が今まで積み重ねてきた経験や知識の伝達は自由であるべきだという確信が私たちの日々の営為を深いところで支えているのです。

目的を達成するため、他の人の作った既存の道具を組み合わせ、新しい道具を組み立てるという活動がプログラミングです。そういった活動の成果であるコンピュータソフトウェアも、科学知識と同様に「いつでも、誰でも、無料で」という自由な流通が理想と考えます。しかし、ソフトウェアは、人間には未体験の速さでインターネットを移動していき、複製されます。ソースコードやデジタルデータについて、すべてを「フリー」にしてしまったとき想像できないような問題が出てこないだろうか。製作者の意思に反する悪意を持ったコード改変、軍事目的への転用などを防ぐため規則は作れるのか。そんな「自由へ模索」はこれからも続いていくのではないかと思います。(手塚)

☆ 活動日誌

- 1月31日(水) 通信「なんとなくのひろば」第74号 発行
 2月11日(日) ベリー会(学習会)
 2月21日(水) 教育支援センターとの打ち合わせ会(西尾、白井)
 2月28日(水) 青年会議所・例会「急募 少子化と戦う仲間たちよ！」に参加
 3月 3日(日) 「こどもワカモノフェスタ・2024」・宇都宮アミークス
 3月 5日(火) 第118回 理事会
 3月 9日(土) 「日光ボランティア・市民活動フェスタ」参加
 3月13日(月) 茶話会(第133回)
 3月24日(日) ベリー会(グループ相談会)
 3月27日(水) 進学・進級を祝う会
 3月29日(金) 子どもの居場所・2023年度 最終日
 4月 1日(月) 子どもの居場所・2024年度 開始日
 4月 8日(月) 茶話会(第134回)
 4月23日(火) 通信「なんとなくのひろば」第75号 発行

さくらそう関連

2023年度 日光市相談支援専門員連絡会

- 1月24日(水) 第10回 日光市相談支援専門員連絡会 ストレングスについて
 2月28日(水) 第11回 日光市相談支援専門員連絡会 年金について
 3月27日(水) 第12回 日光市相談支援専門員連絡会 今年度の振り返り・次年度計画案

2023年度 日光市障がい者自立支援協議会

- 1月11日(木) 第 9回 ケース・事例検討会議 近藤式事例検討
 2月 8日(木) 第10回 ケース・事例検討会議 近藤式事例検討
 3月14日(木) 第11回 ケース・事例検討会議 近藤式事例検討

今年もやります！
川むしたんけん隊
5月25日(土)
足尾・神子内川
 通信73号でお知らせした
 「調査個所」です。
 集合場所・時刻は未定



なんとなくのこわ 通常総会のお知らせ

日時：2024年5月11日(土) 午後1時30分 開会

会場：子どもの居場所

〒321-1261 日光市今市316-4

電話 090-3227-7079

議事：2023年度 事業報告および決算報告

2024年度 事業計画および予算案

みなさまのご援助、ご協力に支えられ、当会が活動を始めた2004年からかぞえ、今回はNPOとして第20回目の通常総会となります。

オブザーバー参加も歓迎。興味のある方はご連絡ください。

子育て・親育ちの茶話会

場所：子どもの居場所（日光市今市316-4）

日時：毎月 第2月曜日（午前10時～12時）

次回の予定は電話でお問い合わせください。

参加費：300円（お茶代）

同じ悩みを持つ親御さん同士、気持ちを許し合って、情報や悩みを分かち合いましょう。「一人で悩まず、みんなで！」を合い言葉に。
 (Tel : 090-3227-7079)

「こどもワカモノフェスタ・2024」(宇都宮・アミークス) 「日光ボランティア・市民活動フェスタ」参加



3月3日(日)に宇都宮で開かれた「こどもワカモノフェスタ・2024」は昨年同様「科学実験・その他」で参加。午前中、アミークス会場の2階ロビーに2台の micro:bit でコントロールするロボットなどを展示しました。今回は子どもの参加が少なく、準備したいくつかの「実験」を見せる機会が数回しか作れず、お昼になってしまったのは残念なことでした。左写真は3月9日(土)の「ボラフェス」の展示の様子です。会場は中ホール。子どもたちからの質問も次々とあり、大人から子どもまで、多くの人たちとの出会いがありました。ワカモノフェスタで展示したロボットや簡単モーター、超音波距離計などを実演しました。後ろのパネルにはふだんの活動を展示。「なんにわ通信」もたくさん配布しましたよ。右隣りは「今市の水を守る市民の会」展示の一部です。「川むしたんけん隊」でお世話になっている塚崎さんが、当日朝、行川(室瀬行川橋付近)で採集したヘビトンボ(右写真)、カワゲラ、トビケラなどが人気でした。(福田、手塚)



なんとなくのひろば

〒321-1261 栃木県日光市今市378

電話 090-3227-7079 / email: info@nantonakuno.net

ホームページ <http://www.nantonakuno.net/>



私たちの活動目的：

日光市とその周辺地区に居住する子どもおよび青少年等に対して、学習や自立のための支援活動と地域への啓発活動を行い、社会に出た後も継続性のある、支援と学びの場を作り出します。

私たちの事業：

- ① 子どもたちの自主性および自立性を尊重した居場所の提供および学びの場の運営
- ② 子どもたち一人ひとりに対応した、新たなカリキュラムや学習内容の開発
- ③ インターネットなどのIT環境を活用した学びの支援
- ④ 教育についての相談や情報提供活動
- ⑤ 学校外で育つ青少年の自立に関する相談および就労を支援する活動
- ⑥ 自然環境の中での学びを作り出し、自然環境保全の大切さを啓発する活動
- ⑦ 障がいの理解および啓発に関する企画運営事業
- ⑧ 第二種社会福祉事業の相談支援事業経営

こんな本はいかが？ その 65

日野原重明先生のお勧め本と、先生の本

◎「葉っぱのフレディ — 命の旅 —」

レオ・バスカーリア作 みらい なな訳 童話屋 1998年

この本は、かつて、内科医の日野原重明先生がお勧めしていた本です。本の扉に「編集者からのメッセージ」として、こんなことが書かれていました。

「私たちはどこから来て どこへ行くのだろうか。生きるとはどういうことだろう 死とは何だろうか。人は生きている限り、こうした問いを問い続けます。この絵本が 自分の人生を『考える』きっかけになってくれることを祈ります。」

この絵本を是非子どもたちと一緒に読んでほしいと思います。この絵本は、子どもにとっても若者にとっても、年を重ねた大人にとっても、その時々で考えを深めていける絵本です。

◎「生きていくあなたへ」 — 105歳どうしても残したかった言葉 —

日野原重明 著 幻冬舎 2017年

この本は、編集者が日野原先生にインタビュー取材をすることで出来上がったものです。日野原先生は、長い間、「命の授業」というタイトルで全国の10歳の子どもたちと交流してきました。その中で「命というのは君たちが使える時間の中にあるんだよ」と伝えるそうです。

この本では、第1章・死は命の終わりではない、第2章・愛すること、第3章・ゆるすことは難しい 第4章・大切なことはすぐにはわからない、第5章・未知なる自分との出会い という風に展開していきます。どの章のどの言葉を読んでも、日野原先生の愛があふれています。是非読んでいただきたい1冊です。 (白井)

会員について

- 正会員：50
- 賛助会員：13
- 団体会員：3
- 入会金なし
- 年会費(一口)
- 正会員 3,000円
- 賛助会員
- 個人 5,000円,
- 団体 10,000円



私たちの活動は会費と寄付金でまかなわれています。応援をよろしくお願いします。会員は新たな事業の提案、会の事業の運営などに直接かかわることができます。みなさまの積極的な参加をお願いします。

なんとなくのへや

映画「オッペンハイマー」が話題になっている。ウランの原子核分裂により大きなエネルギーが取り出せることが発見されたのは1939年。連鎖反応の研究を経て1942年には早くも原子炉が作られた。時は第二次世界大戦の真っただ中。ナチス・ドイツの原子爆弾開発に先んじようとアメリカは「マンハッタン計画」を猛スピードで推進し1945年に原爆を完成させた。その開発の中心人物、理論物理学者オッペンハイマーの視点で描かれた映画だ■マンハッタン計画の立役者は陸軍のレズリー・グローヴス准将だったという話を聞いたことがある。だいぶ前のことで、物理か何かの専門誌に載っていたような気がする。潤沢な軍事予算を使い、大車輪で原爆を作り上げたという記事だった。映画ではマット・デイモンが少し後ろに引いた雰囲気で見ている。ウランの濃縮のため何万人もの労働者を集め街を建設。実験場から先住民を追い払うなど強引な運営を引き受けたのはこの軍人だったのだろう。天才オッペンハイマーは科学者・技術者たちをひとつにまとめ、方向付けるための「アイコン」として機能したように思う■映画中の印象的なエピソードをひとつ。重い原子核の分裂でエネルギーを取り出すのが原爆や原子炉。いっぽう、軽い原子は核融合によりエネルギーを放出する。原爆の高熱で大気が核反応を起こし、地球全体が高熱に覆われるという恐れがあったのかもしれない。グローヴスが「そんなことは起きないだろうな」と不安げにオッペンハイマーに問いかける。理論物理学者の答えは「可能性はゼロではない」。量子力学は物理現象を確率で予言する。その確率が1京分の1でも「ゼロではない」。オッペンハイマーもじつは心配だったのか、はたまたグローヴスをからかっただけのかは、わからない。(T)